

令和8年度徳島県中学校 教育課程研究集会 「外国語科」

徳 島 県 教 育 委 員 会
外 国 語 教 育 担 当

本日の日程

＜部会Ⅰ＞ 13：40～14：50

【講演】次期学習指導要領に向けて

文部科学省教育課程課教育課程企画室長 栗山 和大 氏

＜部会Ⅱ＞ 15：00～16：00

① 外国語教育の現状を知る

- ・生徒の英語力について

② 指導の質を向上させる

- ・中学校外国語で求めていること
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について
- ・生成AIの活用について

③ グループ協議

生成AIを活用した魅力ある授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

④ まとめ、リフレクション、事務連絡

本日の日程

＜部会Ⅰ＞13：40～14：50

【講演】次期学習指導要領に向けて

文部科学省教育課程課教育課程企画室長 栗山 和大 氏

＜部会Ⅱ＞15：00～16：00

① 外国語教育の現状を知る

- ・生徒の英語力について

② 指導の質を向上させる

- ・中学校外国語で求めていること
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について
- ・生成AIの活用について

③ グループ協議

生成AIを活用した魅力ある授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

④ まとめ、リフレクション、事務連絡

第4期教育振興基本計画（令和5年6月15日閣議決定）（抜粋）

目標4 グローバル社会における人材育成

（略）豊かな語学力、異なる文化・価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力、新しい価値を創造する能力、主体性・積極性・包摂性、異文化・多様性の理解や社会貢献、国際貢献の精神等を身に付けて様々な分野・地域で国際社会の一員として活躍できる人材を育成する。（略）

【測定指標】

- 英語力について、中学校卒業段階でCEFRの **A1レベル相当以上**、高等学校卒業段階で**CEFRのA2レベル相当以上**を達成した中高生の割合の増加（5年後目標値：**6割以上**）
- 全ての都道府県・政令指定都市において**、中学校卒業段階で**CEFRのA1レベル相当以上**、高等学校卒業段階で**CEFRのA2レベル相当以上**を達成した中高生の割合を 5年後までに**5割以上**にすることを旨とする
- 特にグローバルに活躍することが期待される層の拡充に向けて、高等学校卒業段階で **CEFRのB1レベル相当以上**を達成した**高校生**の割合の増加（5年後目標値：**3割以上**）

○外国語教育の充実

- 外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を着実に育成するため、教材・指導資料の配布や**デジタルを活用したパフォーマンステストの実施**など**ICTの一層の活用促進**、教師の養成・採用・研修の一体的な改善、特別免許状の活用や専科教師・外国語指導助手（ALT）配置等の学校指導体制の充実など、総合的に推進する。
- 各都道府県等の負担軽減など必要な改善を行いつつ、**「英語教育改善プラン」の策定とそれに基づく計画的な取組**を促し、英語教育実施状況調査等を通して継続したフォローアップを行うことにより、PDCA サイクルを着実に機能させ、生徒や教師の英語力や指導力の向上を図る。
- 大学入学者選抜において、「読む・書く・聞く・話す」の4技能に関する総合的な英語力を適切に評価するため、各大学の個別選抜について、優れた取組を幅広く普及するなど、各大学の取組を推進していく。

中学生の英語力（CEFR A1レベル相当以上）

- CEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合は**54.6%**で増加

徳島県

	R5	R6	R7
合計	55.4%	53.2%	51.8%
取得	33.1%	30.8%	36.2%
見取り	22.3%	22.4%	15.6%



※ 上のグラフでは、中学校（R7は特別支援学級及び特別支援学校中学校を含む。）第3学年の生徒に占める割合を算出している。
 ※ 特別支援学級及び特別支援学校中学校については、外国語科について中学校の目標及び内容に準ずる教育課程で学んでいる生徒のみを対象としている。
 ※ 「第4期教育振興基本計画」(R5～R9)では、中学校卒業段階でCEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合6割以上を目標としている。
 ※ 「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒」とは、実際に外部検定試験の級、スコア等は取得していないが、2技能又は3技能を測る試験におけるスコア、公式な記録としては認定されない試験のスコア、CAN-DOリストに基づく自校でのパフォーマンステストの結果、MEXCBTに掲載しているCBT問題の解答状況、AIツール等による英語力の判定結果等により、それに相当する英語力を有していると英語担当教師が判断する生徒を指す。
 ※ CEFR A1レベル相当以上の英語力を有するかどうかを判断する際に活用した根拠（複数回答可）：2技能又は3技能を測る試験におけるスコア52.9%、公式な記録としては認定されない試験のスコア41.2%、CAN-DOリストに基づく自校でのパフォーマンステストの結果49.6%、MEXCBTに掲載しているCBT問題の解答状況2.5%、AIツール等による英語力の判定結果2.0%、その他15.3%（R7）
 ※ H23～H24の数値は「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」に係る状況調査に基づく。
 ※ H23はH23年9月1日時点、H25はH25年12月2日時点、H24～H26は各年の12月1日時点であり、R7はR8年2月1日時点。
 ※ 上のグラフに示すH23～R7の数値は小数第二位を四捨五入したものである。また、割合の合計は小数第二位を四捨五入する前の数値を合計して算出しているため、四捨五入後の割合の合計と一致しないことがある。

英語教育実施状況調査

		人数
第3学年に所属している生徒数（ア）		
（ア）のうち、英語能力に関する外部試験を受験したことがある生徒数（イ）		
（イ）のうち、CEFR A1レベル相当を取得している生徒数（ウ）		
（イ）のうち、CEFR A2レベル相当を取得している生徒数（エ）		
（イ）のうち、CEFR B1レベル相当を取得している生徒数（オ）		
（イ）のうち、CEFR B2レベル相当を取得している生徒数（カ）		
（イ）のうち、CEFR C1レベル相当を取得している生徒数（キ）		
（イ）のうち、CEFR C2レベル相当を取得している生徒数（ク）		
（ア）のうち、CEFR A1レベル相当 <u>以上</u> の英語力を有すると思われる生徒数 〔（ウ）～（ク）以外〕（ケ）		
【（ウ）～（ク）の合計】 CEFR A1レベル相当 <u>以上</u> を取得している生徒数		0
【（ウ）～（ケ）の合計】CEFR A1レベル相当以上を取得している、 あるいはA1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数		0

**資格等
を取得**

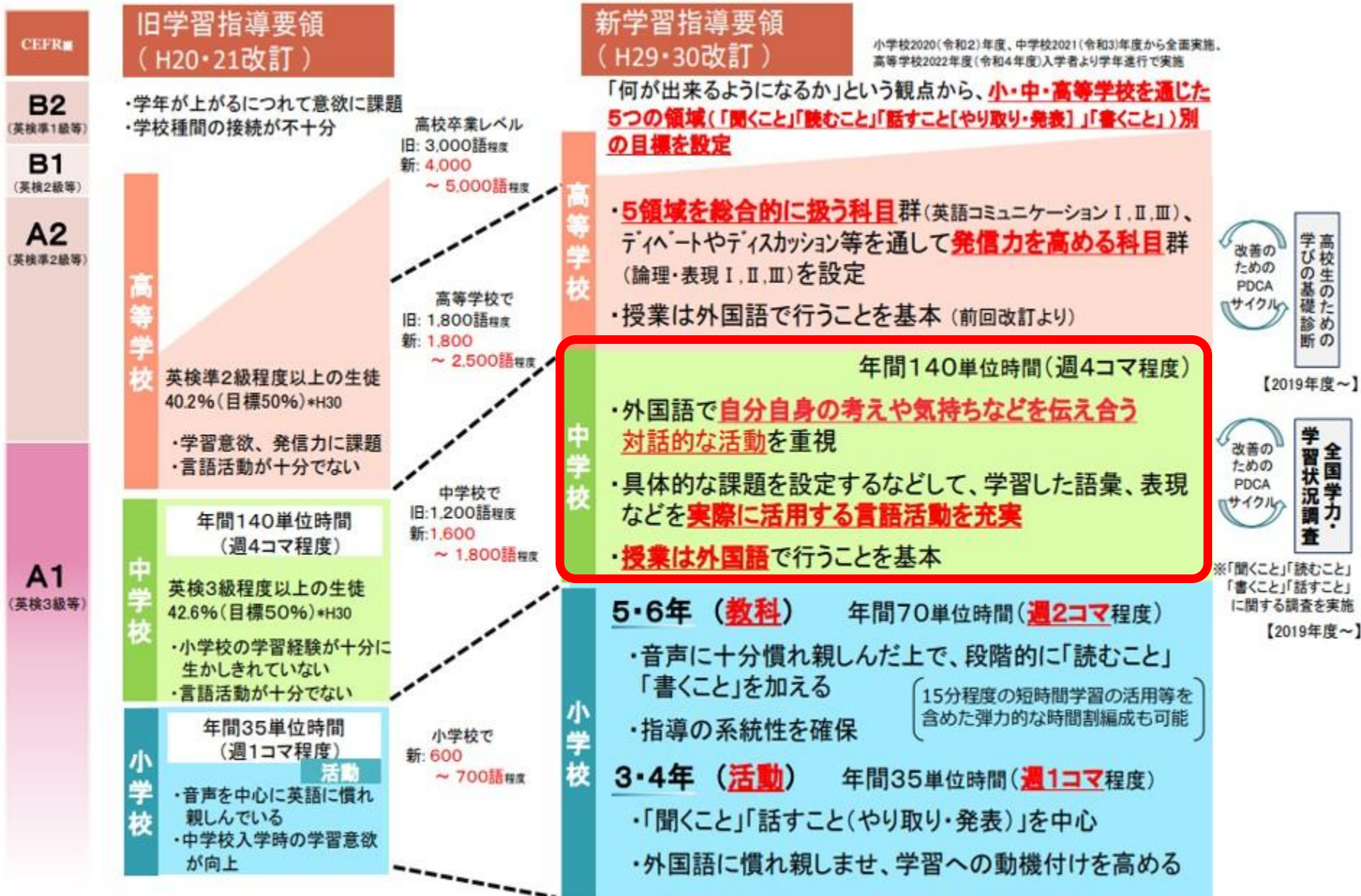
見なし

※「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数」とは、実際に外部検定試験の級、スコア等は取得していないが、それに相当する英語力を有していると英語担当教師が判断する生徒の人数を指します。

【判断方法の例】

- ・2技能又は3技能を測る試験におけるスコア ・公式な記録としては認定されない試験のスコア（例：英検IBAなど）
 - ・CAN-DOリストに基づく自校でのパフォーマンステストの結果
 - ・MEXCBT（文部科学省CBTシステム）に搭載しているCBT問題の解答状況
- （参考： https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503_00010.htm）
- ・AIツール等による英語力の判定結果 等

外国語教育の抜本的強化(イメージ)



※CEFR: 欧州評議会 (Council of Europe) が示す、外国語の学習や教授等のためのヨーロッパ共通参照枠を言う。英検との対照は日本英語検定協会が公表するデータによる。

本日の日程

<部会Ⅰ> 13:40～14:50

【講演】次期学習指導要領に向けて

文部科学省教育課程課教育課程企画室長 栗山 和大 氏

<部会Ⅱ> 15:00～16:00

① 外国語教育の現状を知る

・生徒の英語力について

② 指導の質を向上させる

- ・中学校外国語で求めていること
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について
- ・生成AIの活用について

③ グループ協議

生成AIを活用した魅力ある授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

④ まとめ、リフレクション、事務連絡

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学校外国語科で育成する資質・能力

知識及び技能

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

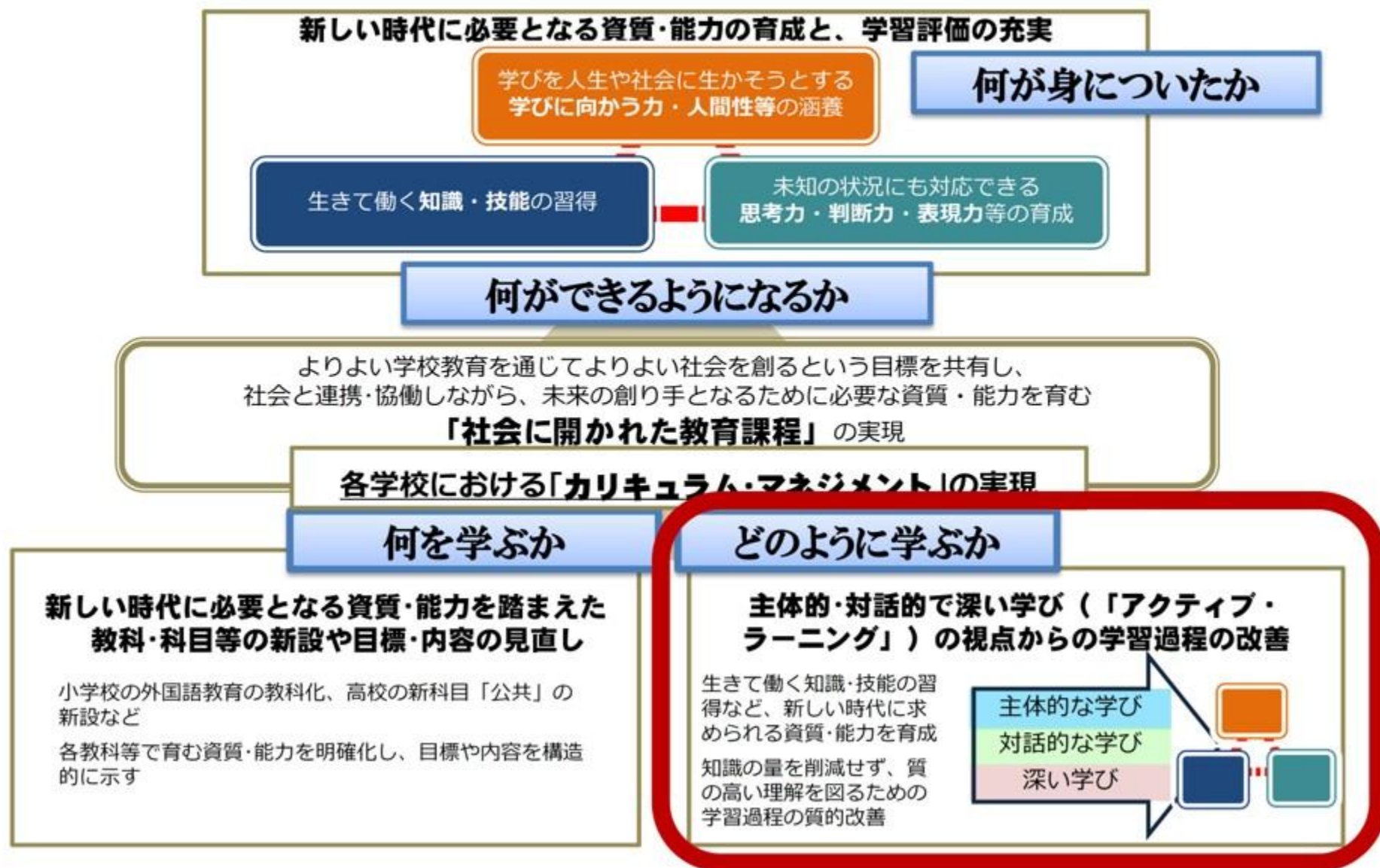
思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

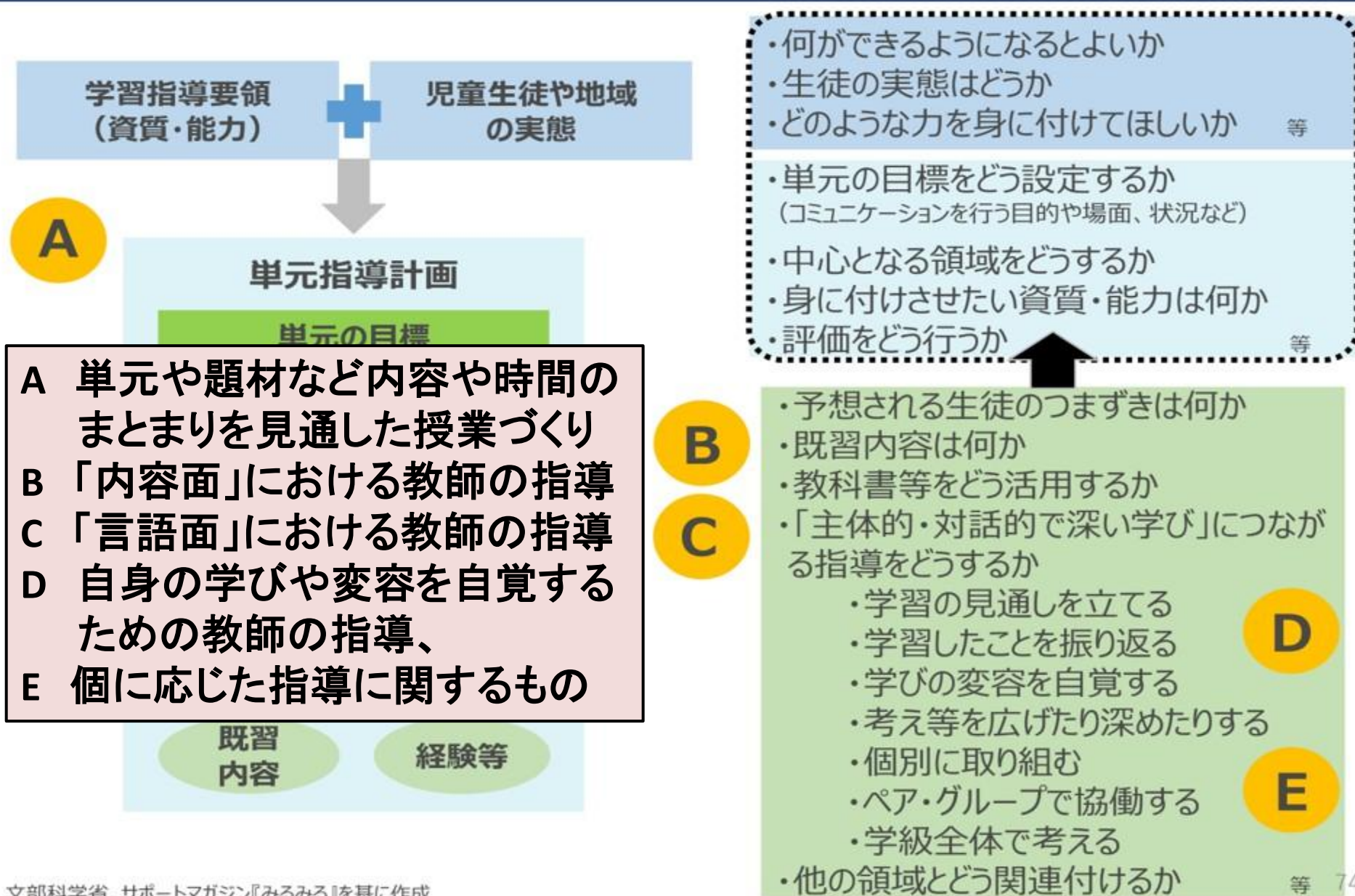
学習指導要領の理念と構造



- ア 授業改善の捉え方
- イ 3つの視点で授業改善を進めること
- ウ 学習活動の質を向上させること
- エ 内容や時間のまとまりの中で実現を図ること
- オ 「見方・考え方」を働かせること
- カ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図ること

イ 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、児童生徒に目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業を進めるものであること。

「主体的・対話的で深い学び」の視点における指導の在り方



文部科学省 サポートマガジン『みるみる』を基に作成

初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要】



教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。

1. 生成AIについて

生成AIの概要



- 生成AIとは、文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称
- 汎用的なサービスだけでなく、様々な提供形態・提供主体が出現し、教育分野にも導入
- 様々なリスクの存在が指摘される一方で、技術的な対策も進展

2. 基本的な考え方

人間中心の利活用



- 生成AIを有用な道具になり得るものと捉え、出力を参考の一つとして、リスクや懸念を踏まえた上で、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要
- 学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用
- 学びの専門職としての教師の役割が一層重要

情報活用能力の育成強化



- 生成AIの仕組みの理解、学びに生かしていく視点、近い将来生成AIを使いこなすための力を、各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要
- 生成AIが社会生活に組み込まれていくことを念頭に、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていくことが必要

3. 学校現場において押さえておくべきポイント

教職員が校務で利活用する場面



- 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

児童生徒が学習活動で利活用する場面



- 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要
- 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

教育委員会等が押さえておくべきポイント



- 教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要
- 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じることが必要であり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない
- 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要

共通して押さえておくべきポイント



- 安全性を考慮した適正利用
- 情報セキュリティの確保
- 個人情報・プライバシー著作権の保護
- 公平性の確保
- 透明性の確保、関係者への説明責任

参考資料編

- 各場面や主体に応じたチェック項目、生成AIパイロット校における先行取組事例、学校現場において活用可能な研修教材 等

B 内容面における指導の例

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

(R8 全国学力学習状況調査問題10より)

この英文をもとに、次のテーマについて話し合う。

Should we use the internet for learning? Why?

生徒

Gemini

あなたは中学生です。次のテーマについて、私と英語で対話してください。テーマからずれないように質問したり話し合うなどして、内容を深めてください。中2レベルで、英文は30語程度です。

Should we use the internet for learning? Why?

(自分の意見) I think it is a good way because it is easy.

I agree with you! It is very easy to find information quickly. Also, we can use the internet anywhere and anytime with our smartphones. What do you usually search for when you study?

B 内容面における指導の例

I search for difficult English words.

I agree with you! It is very easy to find information quickly. Also, we can use the internet anywhere and anytime with our smartphones. What do you usually search for when you study?

I search for difficult English words.

That is a very good way to use it! Online dictionaries are useful because we can also listen to the sounds of words. It is good for our English. But sometimes, is it difficult to choose the right meaning from many answers?

Yes. Sometimes I can't find the best one.

I understand. That happens to me too! There are too many choices on the internet. When you get confused, do you ask your school teacher, or do you look at a paper dictionary?

C 言語面における指導の例

あなたは、新しく来た留学生に学校生活に慣れてもらうために、学校紹介の冊子を渡すことにしました。「学校で普段行うこと」を1つ取り上げそれについての説明を書きましょう。

(R8 全国学力学習状況調査問題14をもとに作成)

We clean our classrooms with. It is a great. I like clean classroom with friend.
この英文は正確に書けていますか。

1. with の後ろには言葉が必要with(～と一緒に)を使うときは、with my friends などのように、「誰と」を表す言葉を後ろにつける必要があります。
2. It is a great. は文が途切れているgreat(すばらしい)のあとに、time(時間)や experience(経験)などの名詞を入れるか、It is great. (それはすばらしいです)で止める必要があります。
3. classroom と friend の数に注意教室や友達は複数あることが多いので、classrooms や friends と複数形にすると自然です。また、clean を cleaning にすると「掃除すること」という意味になります。

元の文の良さを活かして直すと、こんな風になります！

We clean our classrooms with our friends. It is a great time. I like cleaning classrooms with them.

C 言語面における指導の例

Geminiの学習モードを活用

We clean our classrooms with. It is a great. I like clean classroom with friend. この英文は正確に書けていますか。

まず、1文目の「We clean our classrooms with.」に注目してみます。

 ポイント:with の後ろの言葉

英語の with は「～と一緒に」という意味の言葉なので、後ろに「誰と」を表す言葉をセットで置く必要があります。

 考えてみよう!

あなたは「誰と一緒に」教室を掃除しますか?with の後ろに続く言葉(例えば「私たちの友達」や「クラスメイト」など)を英語で考えて、1文目を完成させてみてください!

We clean our classroom with friend.

素晴らしいです!with の後ろにちゃんと言葉を補うことができましたね。👏

次にもう一步だけレベルアップさせてみましょう。

 数(単数・複数)のポイント

英語では、数えられる名詞(友達 friend などの人や物)が1つ(1人)なのか、それともたくさん(複数)なのかを意識するのが大切です。学校の掃除は、普通たくさんの友達と一緒にしますよね。ですので、with friend ではなく、with friends(友達と)や with my friends(私の友達と)のように複数形にすると、とても自然になります。

中学校第3学年 外国語 「This is Me」

■単元の目標

クラスメイトに向けて「This is me」を伝えるために、様々なスピーチ文を自分の考えと比較しながら読んだり、友達とやり取りしたりしたことを基に、伝える内容をメモに整理することを通して、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

■単元の概要

将来の夢について、書き手や構成が異なる様々なスピーチ文や自分のキャリアパスポート、過去の学習の振り返りなどに触れながら、伝える内容をメモに整理して表現することを繰り返し行う。

■単元の指導計画（9時間）

第1時

「単元の見通しをもつ」

- ① 1 年度の自分の動画を見返し、内容面や構成面について現在の姿と比較する。
- ② 「自己の変容・成長」について英語でやり取りをし、単元の見通しをもつ。
- ・卒業生などの過去のスピーチ動画を見る。

■単位時間の概要

2年次に行った「将来の夢」の発表動画やメモを振り返り、現在の自分の姿と比較する。「自己の変容・成長」について英語でやり取りをした後、3年間共に過ごしたクラスメイトに卒業スピーチを行うという単元のゴールの活動を理解し、見通しをもつ。

第2～5時

「教科書の内容・表現について考えを深める」

- ・学習者用デジタル教科書、Natural Reader、ELSA Analyzer も用いながら、教科書内容の理解を深める。（個別最適な学び）
- ・考えたことや感じたこと、スピーチの工夫点について友達とやり取りする。（協働的な学び）

教科書に載っているスピーチ文について、ICT（生成AIを含む）も用いながら「聞く、読む、話す」活動に取り組み、内容や構成、言語面の理解を深める。教科書のスピーチから考えたことや感じたこと、スピーチの工夫点について、友達と英語でやり取りする。

第6～9時

「読む→考える→整理する→話す」

- ・スピーチ文を自分の考えと比較しながら読み、情報の吟味、整理、発表を繰り返し行う。
- ・生成AIを補助的に用いて英文を読む。
- ・必要に応じて、キャリアパスポート、総合的な学習の時間での学びを蓄積した「生き方シート」を見返す。

自分のスピーチの課題（内容面、構成面、言語面）を解決するために、教師が生成AIを活用して作成した「書き手」「構成」「語彙数」が異なる複数のスピーチ英文を複数選択する。自分の考えと比較しながら選択した英文を読んだり、キャリアパスポートなどを活用して自己と向き合ったりする学習（個別最適な学び）と、考えたことを友達と英語でやり取りする学習（協働的な学び）を往還しながら、スピーチの内容を深めていく。

E 個に応じた指導の充実

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している生徒の姿（第7時）

【学習活動の場面】

伝えたい内容をメモに整理し、教科書のスピーチを読んだ生徒たちは「将来の夢に対する考え方や表現（段落構成や言語面）が参考になったので、もっと他のスピーチにも触れたい」との考えをもった。そこで教師は「自分の考えを深めるために、様々なスピーチを選んで読み、自分のスピーチに生かそう」と投げかけた。

【生徒の「深い学び」の姿】

Aの本時の目標「将来の夢（職業）が決まっていけないので、スピーチの構成に悩んでいる。「将来」そのものについて他の人がどう考えているか知りたいし、読み手を惹きつけられるような導入にしていきたい。」

Aは、「イギリス在住、同い年、夢がテーマ、350語のスピーチ」を選択した。

- ・読んで考えたことのメモの一部
「夢＝職業ではなく、生涯を通してやりたいこと」
「職業が決まっていけない人が多い」
「将来に対しての考え方が違う」



- ・クラウド上で共有された同じ英文を選んだ友達のメモ（スピーチを読んで考えたこと）を参考に、自身のキャリアパスポートを振り返り、スピーチメモを整理した。

Aは、考えを整理して友達に発表した後、振り返りを記述した。

「将来の夢がないので何も伝えられないと思っていたが、「what we enjoy or what we are good at」の部分を読んで、自信をもって自分のしたいことを伝えたいと思ったし、今までにない考え方に触れることができた。小学校の自分がどんな考えだったのか知ることができたので、導入の工夫として当時の気持ちを伝えたい。」

【当該指導での「深い学び」】

Aは、様々な内容のスピーチをICTを活用しながら読むことで、自分と比較しながら考え、書き手の思いや工夫点等に気付いた。それらを整理することで、自分の伝えたい内容を更に深めることができた。

【活用したソフトや機能】ロイロノート（共有・メモ）、Natural Reader（音声読み上げ）、ChatGPT（生成AIによる参考スピーチ作成）、DeepL Write（生成AIを活用した推敲の検討）

② 尊上の工夫と ICTの利活用

①生徒が、カテゴリー化されたスピーチ英文をクラス共有ノートから自由に選択できるようにする。

*スピーチ英文を書き手、語彙、構成別に整理して示すことで、生徒が、自分の願いに合った英文を選択することができる。

②生徒が、自分のペースで英文を読み、考えを深めることができるような場を設定する。

*単元を通して「聞く、読む、話す」活動で、ICT（生成AIを含む）を活用する場を設けることで、生徒は初めて出会う英文にも抵抗感なく読むことができ、読んだことを基に自分のスピーチ内容を整理することができる。

③同じスピーチを選択した友達のメモからも考えを共有できる。

*学級全員のメモを可視化することで、目の前のグループとのやり取りだけではなく、同じスピーチを選択した友達の考えにも触れることができ、自分の考えをさらに深めることができる。

本日の日程

<部会Ⅰ> 13:40～14:50

【講演】次期学習指導要領に向けて

文部科学省教育課程課教育課程企画室長 栗山 和大 氏

<部会Ⅱ> 15:00～16:00

① 外国語教育の現状を知る

- ・生徒の英語力について

② 指導の質を向上させる

- ・中学校外国語で求めていること
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について
- ・生成AIの活用について

③ グループ協議

生成AIを活用した魅力ある授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

④ まとめ、リフレクション、事務連絡

<協議の進め方>

1 事前整理の内容を順番に発表する。

① AI を活用した授業実践例・アイデア

各教科の特性に応じた AI 活用の実践事例、または今後の活用に向けたアイデア

② 活用に向けた課題や気になること

これまでの実践で気付いた課題や、今後の活用を進める上での疑問・懸念している点

2 生成AIの活用にあたり、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて重要なこと」についてまとめる。

本日の日程

＜部会Ⅰ＞13：40～14：50

【講演】次期学習指導要領に向けて

文部科学省教育課程課教育課程企画室長 栗山 和大 氏

＜部会Ⅱ＞15：00～16：00

① 外国語教育の現状を知る

- ・生徒の英語力について

② 指導の質を向上させる

- ・中学校外国語で求めていること
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について
- ・生成AIの活用について

③ グループ協議

生成AIを活用した魅力ある授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

④ まとめ、リフレクション、事務連絡

令和6年度「デジタル技術を活用した発信力強化事業」の成果について

事業概要

AI等のデジタル技術を、授業・家庭学習・パフォーマンステストといった様々な場面で活用することにより、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合うなどの「言語活動」の充実等につなげる実証研究を行う。また、効果的な活用について具体的な取組内容や活用方法を広く周知し、活用を促進する。

「AIの効果的な活用」と「教師の役割の変化」

(令和6年度採択団体の報告書より抜粋・要約)



◆授業における活用

⇒(AIとの対話で見られた生徒のつまずきを指導)

- ・AIの反応を見ながら、表現の方法を変えてみる
- ・学習者用デジタル教科書を活用し、発音の指導をする
- ・生徒とのやり取りを行い、即興で伝え合う活動を仕組む



⇒英語を学ぶ意義を実感できるよう、オンライン交流で台湾の中学生に、英語で「地域のおすすめの場所」等を紹介。年間計画を検討した上で、オンライン交流前の練習や交流後の復習として、AIを活用した会話・発音練習を実施。

◆家庭学習における活用

⇒家庭学習(AI英会話内容等)と授業を連動することが重要。

◆パフォーマンステストにおける活用

⇒これまで、一人一人に対するテスト時間が必要だったが、AIで一斉に実施できる。テスト後の指導に時間をかけ、より効率的に、かつ丁寧な指導ができるようになった。

ここが落とし穴！「AIの活用」と「教師の役割」

(令和6年度採択団体の報告書より抜粋・要約)



◆AIとの対話が「指導」につながらないケース

○AIとの対話における生徒のつまずきを指導のきっかけにできない。(例:AIの英語が早すぎる。発音が良いすぎて何を言っているのか聞き取れない。言いたいことはあるけれどすぐに反応できない)

⇒「できない」を乗り越えさせることが指導、教師の役割。

- ・苦手な生徒には無理にやらせない
- ・単語やジェスチャーでもよいから反応するように声をかける

◆形式的なAI活用の繰り返しや、教師からの適切なフィードバックの不足などによる、学習意欲の低下

○「音読」や「並べ替え」、「ロールプレイ」などを単純に継続するだけでは、児童生徒がAI活用に飽きてきて、学習意欲の低下につながる。

また、発音や表現を児童生徒が工夫しても、フィードバックとしての点数が向上しないことがあり、児童生徒が戸惑う様子が見られた。これを理由に、それまで以上に「英語は難しい」と感じる児童生徒がいた。

⇒単なる活用が「目的」にならないよう、教師が一人一人の学習状況を適切に把握して個別に声掛けをすることで、児童生徒のモチベーションを持続させることが必要。AIに関する十分な教材研究が重要である。

- 令和7年度事業では、「話すこと」「書くこと」の力の向上に加え、学習意欲や自信の高まり、自主的に学びを深める姿や自分に合った学び方を選択する姿の増加等の成果が見られました。また、授業デザインにおけるAIの位置付けや、知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の一体的な育成、教師・ALTによる児童生徒の見取りや価値づけ等が重要であることも明らかとなりました。
- 事例集では、採択団体の取組事例、環境整備、プロンプト作成のポイント等を紹介しています。また、採択団体が授業でのAI活用等を進めるにあたり実施した9回の勉強会の動画と成果報告会の発表動画も配信していますので、教材研究や研修等でぜひご活用ください。

勉強会・成果報告会の動画

勉強会

- 英語力向上につながる生成AIの活用 ～生成AI導入時における英語指導のポイント～
- AIの概要と活用する上での留意点

成果報告会

- AI活用による言語活動を通じた指導の充実（採択団体代表：秋田県教育庁高校教育課）
- 学習指導要領の趣旨の実現につながる中学校におけるAI活用実践事例
- AIを活用した英語教育の「深化」へプロンプト設計で変わる学びのループー
- 生成AIの活用で英語教育は強化されるのか？—「個別化」から「最適化」へ、人間中心の授業設計—

AI英語教育
プラットフォーム



<https://ai-eigo.mext.go.jp/>

英語教育におけるAI活用の事例集

- 授業内外における事例
- コラム「AI時代の英語教育・英語教師の在り方」「授業準備等におけるAI活用」
「『話すこと』でのAI活用に向けた環境整備の工夫」
「生成AI活用におけるプロンプト作成のポイント・例」



https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/mext_00009.html

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会外国語ワーキンググループ（第9回）でも事業の成果を報告しています。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/108/siryo/mext_00009.html

テーマ

本日の研修を振り返って

- ・ 学んだこと
- ・ 自分の実践にどのように取り入れていくか

① 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を図る授業づくりについて学ぶ

文部科学省サポートマガジン『みるみる』

<https://mext-curriculum-gov.note.jp/m/m3b4a6bc792d6>



② 授業づくりについて学ぶ1

令和5年度全国学力・学習状況調査調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導事例集

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou/eigo/r07.html>



③ 授業づくりについて学ぶ2

文部科学省/mextchannel 外国語教育はこう変わる！
(新たに4本の動画を追加)

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f>



28

徳島版小中高連携チェックリスト～校種間の学びをつなげるために～（R7年度末掲載）

徳島版小中高連携チェックリスト1

～校種間の学びをつなげるために～

（主に各自・各校でできること）

主に各自・各校で取り組める内容の例です。目的に応じて活用しましょう。（ウェブページを見る場合は口を、詳細版で内容を確認する場合は番号をクリックしてください。）

〔学〕：学習指導要領解説 〔指〕：「指導と評価の一体化」サイト 〔教〕：教科書 〔W〕：ウェブサイト

1. それぞれの校種での目標を理解するために

- ① 〔学〕 「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧（小・中：付録6、高：付録8）
- ② 〔指〕 各領域の学習到達目標（小・中）
- ③ 〔教〕 目次や各単元に記載されている目標等

2. 授業についての理解を深めるために

（1）言語活動について

- ④ 〔学〕 「外国語活動・外国語の言語活動の例」の学校段階別一覧表（小・中：付録8、高：付録9）
- ⑤ 〔教〕 各単元の構成、言語活動における目的・場面・状況、内容等
- ⑥ 〔教〕 Small Talk や帯活動のテーマ、領域統合等
- ⑦ 〔W〕 nextchannel（文部科学省公式チャンネル）での授業・研修動画の視聴

（2）言語材料について

- ⑧ 〔学〕 「外国語の言語材料」の学校段階別一覧表（小・中：付録7、高：付録9）
- ⑨ 〔教〕 言語材料の使用場面、言語活動・学習活動等
- ⑩ 〔教〕 言語材料を指導する学年・時期等

3. 評価についての理解を深めるために

- ⑪ 〔W〕 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- ⑫ 〔指〕 各領域の評価問題例
- ⑬ 〔W〕 学習指導要領実施状況調査や全国学力・学習状況調査（中学校）の問題等
- 〔1〕 R4小学校学習指導要領実施状況調査 □ 〔2〕 R5全国学力・学習状況調査

徳島版小中高連携チェックリスト2

～校種間の学びをつなげるために～

（主に校種間の連携を通してできること）

校種間で連携を行う場合にに取り組む内容の例です。目的に応じて御活用ください。

1. 校種間での授業の参観を通して

- ① 参観する前に、学習指導要領や教科書等（チェックリスト1参照）を確認する。
- ② 授業参観時に、例えば次のような点に着目して授業を参観する。
 - ・単元の構成（コミュニケーションの目的や場面、状況等の設定）
 - ・言語活動（活動の内容、領域統合等）
 - ・言語面・内容面における指導
 - ・児童生徒の学習への取り組み
 - ・自分の校種との関連
 - ・ICTの利活用

2. 校種間連携を意識した授業づくりを目指して

- ③ 各校での目標について、CAN-DOリスト等で共有する。
- ④ 各学年で学ぶ内容や各単元の目標、終末の言語活動等の大まかな内容を共有する。
- ⑤ 言語活動や継続的に取り組んでいる Small Talk や帯活動等について共有する。
- ⑥ それぞれの校種で系統性を意識して指導する内容について共有する。
- ⑦ パフォーマンステストや評価の方法等について共有する。
- ⑧ 授業で使用している教材やワークシートを共有する。
- ⑨ 一人一台端末の活用方法や使用しているアプリ等について共有する。
- ⑩ デジタル教科書（指導者用・学習者用）の活用について共有する。

3. 児童生徒の実態を知るために

- ⑪ 各学校の児童生徒の学習状況について情報交換を行う。
- ⑫ 教員による出前授業を行う。
- ⑬ 児童生徒の学習の成果（ポートフォリオ等）を共有する。

県学力向上関係資料

メニュー

- 県学力向上関係資料
- GIGA・とくしま学び通信
- 学力向上推進員研修会
- 学習ガイド関係資料
- 徳島県学力向上確認プリント
- 学カステップアップテスト（調査問題）
- 学カステップアップテスト（分析）
- 学カステップアップテスト（分析）
- 授業づくり研修
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

徳島県学力向上確認プリント 中2英語 6回分

学習ガイド関係資料 活用問題

授業づくり研修 全国学力・学習状況調査をもとにした授業づくりに関する資料

県学力向上関係資料 メニュー

- ▶ GIGA・とくしま学び通信
- ✦ 学力向上推進員研修会
- ▶ 徳島県学力向上確認プリント
 - ・ 小学校：4年 5年 6年
 - ・ 中学校：1年 2年
- ▶ 学カステップアップテスト（調査問題）
 - ・ 小学校：4年 5年
 - ・ 中学校：1年 2年
- ▶ 学カステップアップテスト（分析）
- ✦ 学習ガイド関係資料
 - 小学校：国語 算数 理科 外国語
 - 中学校：国語 数学 理科 英語
- ▶ 授業づくり研修
 - ・ 令和5年度（小学校：国、算 中学校：国、数、英）
 - ・ 令和4年度（小学校：国、算 中学校：国、数、理）
 - ・ 令和3年度（小学校：国、算、理 中学校：国、数）

<https://siryou.tokushima-ec.ed.jp/>



StuDX Style (スタディーエックス スタイル)

スタディーエックス スタイル

特設ウェブサイト「StuDX Style」について

特設ウェブサイト「StuDX Style」では、1人1台端末の更なる利活用の促進に向けて、全国の学校や自治体から提供いただいた端末の活用方法に関する優良事例等を数多く紹介しています。

具体的には、活用のはじめの一步となる「慣れるつながる活用」、各教科等の学習に生かす「各教科等での活用」の事例を紹介するとともに、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていく「STEAM教育等の教科等横断的な学習」の取組事例もあわせて掲載しています。



各教科等での活用事例

各教科等の指導における1人1台端末の活用事例について
小学校・中学校・高等学校の各教科等のポイントや、各教科等の特長を踏まえた活用事例を紹介しています。



小学校

国語	社会	算数	理科	英語	音楽	体育・保健	美術	家庭科	外国語	総合的な学習の時間
特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育

中学校

国語	社会	数学	理科	英語	音楽	体育・保健	美術	家庭科	外国語	総合的な学習の時間
特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育

高等学校

国語	社会	数学	理科	英語	音楽	体育・保健	美術	家庭科	外国語	総合的な学習の時間
特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育

STEAM教育等の教科等横断的な学習の取組事例

STEAM教育等において、各教科等での学習を実社会での
問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習
を推進している自治体や学校の取組事例を紹介しています。



GIGAに慣れる活用事例

学習環境づくり等の取り組みやすい事例
や、パスワード指導やルールづくり等の適切で安全な端末活用の事例などを中心に、
1人1台端末の活用に取り組み始める先生方
へのヒントとして紹介しています。

「つながる」活用事例

「教師と子供がつながる」「子供同士が
つながる」「学校と家庭がつながる」「職
員同士でつながる」について、授業等での
活用のヒントが欲しい先生に向けての活用
事例を紹介しています。

各OS事業者との連携

各OS事業者と
連携し、StuDX
Styleの事例の使
い方などを紹介
しています。



特集ページ

自宅等でのオンライン
を活用した学習指導に関
する事例や、先進的に取
り組んでいる自治体の研
修情報やコンテンツ情報
などを紹介しています。

導入

① 動画・音声教材で子供の関心をつかむ！

風連中学校 1年生 数学

「既習事項の振り返りと動画教材の視聴による見通しの明確化」

円錐の体積の求め方を考えるに当たり、授業の導入部で、デジタル教科書の動画教材を視聴。模型に水を入れる様子から、円柱と円錐の体積の関係を視覚的に捉えさせ、課題解決に向けた見通しを確実にもたせる。

事例集 p.30

主体的な学び

② デジタル教科書を駆使してとことん試行錯誤！

門前中学校 2年生 数学

「デジタル教科書を使って粘り強く試行錯誤」

デジタル教科書のシミュレーション機能を活用し、試行錯誤させる。補助線や文字の書き込み、図形の拡大・縮小・複製等、自由に図形を動かしながら思考させ、子供の多様な発想を引出す。

事例集 p.27

③ 多様な機能を用いて学びを自己調整！

柏第四小学校 5年生 外国語

「ゴールに向けた個別の学習方法を学習者に委ねる」

注文・会計のやりとりをペアで実践するに当たり、その準備として、自分が必要だと思う内容を自分のペースで学習させる。ゴールが明確でデジタル教科書での学び方が分かっていたら、自己調整できる。

事例集 p.12

対話的な学び

④ 学級全体の共有に学習支援ソフトも活用！

名寄小学校 5年生 算数

「ワークシートで理解度を可視化し、児童間の交流を促進」

デジタル教科書を切り抜き作成したワークシートにより試行錯誤させ、その結果を学習支援ソフトで全体に共有。その際、児童に理解度に応じワークシートを色分けしてもらい、授業者は支援対象の把握、児童は他者の考えから学ぶ機会として活用。

事例集 p.34

⑤ 互いに学び合う！ 録音・録画 × 共有

西ノ京中学校 2年生 外国語

「アドバイスを録音・共有し、ペア・学級全体で学び合う」

デジタル教科書で学んだ表現を参考にスピーチを作成し、ペアで練習。表現面・内容面に関するお互いのアドバイスを学習者用端末で録音・共有。生徒一人一人の気付きや学級全体の学び合いを促進。

事例集 p.21

深い学び

⑥ デジタルコンテンツを総動員！学びを深める情報整理

加納岩小学校 6年生 外国語

「デジタル教科書の様々な単元を行き来し、学びを深める授業作り」

「家庭学習との結びつけ」や子供たちの「課題を解決したい」を引き出す授業にデジタル教科書等を活用。子供たち自ら様々な単元やコンテンツを行き来して、既習事項に立ち返りながら理解を深め、考えを形成する姿を実現。

事例集 p.24

美国南中学校 2年生 外国語

「即興のやり取りに向けたデジタル教科書を使った情報収集」

ディスカッションの場面で、自分の意見を即興で伝えるに当たり、その理由を添える表現をデジタル教科書から探させる。子供たち自らが、学んだ内容を結び付けながら情報を整理し、論理的に意見を伝える姿を実現。

事例集 p.18

家庭学習

⑦ 家庭学習も学習支援ソフトで共有

加納岩小学校 6年生 外国語

「『学び方を学ぶ』ための、家庭学習×デジタル一覧シート」

家庭学習にデジタル教科書を活用。取組内容は子供たちに委ね、学習支援ソフト上のワークシートを使って個々の取組(単元・コンテンツ・振り返り等)を記録・共有。他者の取組を参考にし、授業と関連づけて学んでいく自律的な学習者を育成。

事例集 p.23

詳細は、以下のコンテンツも参照ください

実践事例集

令和5年度実証研究事業に参加した全国10の小・中学校の授業改善事例を紹介。デジタル教科書等を活用した「授業改善のポイント」について、実際の授業の流れや授業者や児童生徒の声とともに紹介。
https://www.next.go.jp/content/20240621-mxt_kyokasyo01-000035395_2.pdf

実践事例動画

デジタル教科書等を活用した授業づくりを、5分から10分程度の動画で紹介。英語、算数・数学の別に授業の一つ取り上げ、授業の流れに沿ってデジタル教科書等の活用方法を解説。そのほか、活用シーンをTipsにとりまとめた動画も掲載。
https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGxGZ3lmbAoZ0zlw_hShiQbQNXnAd5m



授業の活発な流れを維持しながら、
デジタル教科書等を活用する京都府
京都市立西ノ京中学校

授業改善のポイント

A

デジタル教科書等で実現する、個別最適な語彙練習



改善の観点

主体的

対話的

深い



動画で見る



現状の課題

基礎や既習事項の定着に差があるが、教師が示した学習方法で満足して伸び悩んでしまう。



改善

目指す姿

生徒自ら、単元ゴールの活動や自分の習得状況に応じて「必要な語彙」は何かを考え、習得できる。



デジタル教科書等の活用方法

デジタル教科書から必要な語彙を選ばせ、学習支援ソフトでまとめる

- 「単元ゴールの発表活動に必要な表現」や「自分が習得したい単語」を、生徒自身でデジタル教科書から集め、学習支援ソフトに各々のまとめ方で整理させる。

▲集める箇所・まとめ方は生徒により様々
(生徒の声は動画参照)有識者
からの
アドバイス

生徒は出てきた単語を全部覚えなければいけないという発想に陥りがちなので、選ぶ際に「自分が表現するために必要な単語は何か」を考えさせることが大切です。(東京家政大学 太田洋 教授)

- 一人では探せない生徒もいるため、はじめはペアで、自分が選んだところや選んだ理由を話し合わせる。学習支援ソフトの共有機能を活かし、生徒が選びまとめたものを学級全体で共有。

授業者
からの
アドバイス

大事な表現を一箇所にまとめられ、整理や見直し、修正もしやすいのがデジタルの良さです。以前はインターネットで検索した正確でない表現を使っていた生徒も、デジタル教科書でまとめや振り返りが容易になったことで、教科書から学んだ正しい表現を使うようになりました。(加藤 教諭)

目的・場面を生徒に理解させ、「型を与えて、生徒に委ねる」

- 授業者が活用が有効だと思う目的と場面をしっかりと考え、生徒に取り組む内容の型を提示することで、戸惑うことなく活動に臨み、自ら学ぶことができるように。
- 委ねて手放すだけでなく、教師が見とりサポートすることも重要。

授業者
からの
アドバイス

以前は教師が授業をメインで動かす傾向にありましたが、子供たちは自分の予想以上の取組をしてくれました。「生徒に委ねる部分」と「教師がコントロールする部分」のバランスを、場面や生徒によって考えることが大切だと感じました。(加藤 教諭)

授業改善の効果

授業者の声

- 取組前は、授業者が重要語彙を選び生徒に示していましたが、生徒自身に習得すべき語彙を選ばせる活動を続け、英語が苦手な生徒も使うことができるようになってきました。「自分で選んだ単語だから」という理由だと思います。生徒にとっては、先生が一方的に与えるものより、取り組む意欲がわくのでしょうか。(加藤 教諭)

生徒向けアンケートの結果

- 授業後に行った生徒向けアンケートでは、「語彙を選んだ理由」を調査。以下のような回答から、発表活動や習得状況を意識した取組ができていることが分かる。

- 自分の考えに繋がるような、発表に活かせる表現を選択。
- (教科書の語彙は)友達も聞いていて分かりやすく、自分も覚えやすいから選びました。
- 自分が何回もまちがえてしまうところとか、先生が大事と云った言葉とかを選びました。

有識者の声

- 観察していた生徒も、英語が苦手とは思えないほど伝える相手を意識しながら分かりやすい英語で説明しており、印象的でした。取組の成果が出ていたと思います。(東京家政大学 太田洋 教授)